

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271100719		
法人名	(株)ティ・アイ・サポート		
事業所名	グループホーム「ふるさと木更津」(椿)		
所在地	千葉県木更津市太田4-1-21		
自己評価作成日	平成23年11月21日	評価結果市町村受理日	平成24年1月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7
訪問調査日	平成23年12月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・残存機能を生かし、日常生活での役割を見つけ継続的に支援し、認知症の軽減を図っている。 又、自己決定・自己選択に繋がる声かけを意識し、入居者の希望や要求を少しでも捉えようと努力している。 季節によるが、外出援助中心に、(散歩・買い物・歯科受診・必要品買い物)など出かける機会をつくっている。ホーム内はレクや2階との合同行事で中庭で芋煮会や丑の日(うなぎ丼)など賑やかな会も行っている。 近隣の大学のボランティアや書道の師範に支えられ定期的な月の行事も行っている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「当たり前」の事を「当たり前」にやる」という目標を実践するために現場の出来事を職員で報告し合い、工夫しながら行動していくことを活動の基本にしている。その為、日々の具体的かつ詳細な記録を重視し、毎月の定例ミーティングは大切な意思確認、共有の場となっている。訪問した日はみんなで干し柿をつくっていたが、入居者と職員は声をかけあい、助け合いながら家族のように生活をしている。職員と入居者が一対一で過ごす「ケースの日」を設定し、じっくり向き合い話を聞き、ドライブや外出に出かけるなどして喜ばれている。「家族の協力」を運営の軸としており、家族との交流が盛んである。</p>
--

		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム玄関に理念を掲げ、職員は意識しながら入居者への外出支援中心を行っている[社会との関係が良好に保たれる環境を築き、安心自身笑顔あふれるその人らしい充実した生活を送って頂ける様、思考と試行を繰り返す]	職員が徹底的に話し合っ決めて「理念」と「グループホーム利用者の権利」が玄関に掲示されている。この考え方のもとにサービスのあり方を日々確認しあい、ケアに活かしている。新人には初期教育として必ず理念を噛み砕いて伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に積極的に参加し、挨拶を通じ交流している。又、グループホームの推進会議に区長さん・家族に出席して頂きホームの様子をお話している。	入居者は地域のお祭り見学、敬老会、秋の文化祭などへ参加している。中学生の職業体験の受入れや地域の福祉施設が集うケアマネジメント研究会に参加している。また、ホームの会議にも地域代表の参加を得るなど交流は広い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今回、秋の地区文化祭・敬老会にお招きを頂き、職員と同行することで地域の催し物に参加、付き添い見守りする事で認知症を理解して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、ホーム内行事や取組み状況など説明し、夫々の意見・思いをフリートークで話し合っている。会議に参加された市の職員からも情報をお聴きしている。	2ヶ所の自治会責任者、市の担当課、地域包括支援センター、家族代表などの参加を得て年4回実施している。近況、運営状況報告の他にフリートークの時間は地域の情報交換の場になっている。出席できなかった家族には議事録を送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2名の入居者は市との連携があり、都度協力を頂いている。2か月に1度は相談員さんに来訪頂き、入居者や職員の意見を傾聴して頂いている。	市の担当窓口へは入居者の変動などを伝えたり、運営上の相談や利用者個別の法令に関わる相談などを行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待・身体拘束など認識不足の職員もいる為、会議の中で学ぶ機会を設けたり、アンケート調査などを行い、状態を把握したり意識づけを行い実施している。基本は、施錠をしない方針です。	身体拘束はしない方針のもと、具体的事例で認識を共有化していくことが大切と考えている。食事時の車椅子の使い方、言葉の使い方など認識の違いが出てしまった場合は、その都度意見を交換し、確認しあうようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	一部職員については、研修に行き学ぶ機会がある、又、それを伝達している。些細な傷・体調変化を記録すること、職員同士がケアを見つめる事で不適切ケアを防止している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	正社員については、夫々が学ぶ機会がある、昨年度成年後見制度について利用されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際にはご家族へ十分に説明し、入居に至っている。不安や疑問があれば都度説明して、ケアプランを実施した中でも意見を伺い納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者が常勤している場合は、直接ご家族と話をすることがあり意見要望を收取している。地域密着の点から、医療の面でホームの方針があり、反映出来ない支援が含まれる。	入居時には自宅を訪問し、入居者及び家族の意見や希望を聞く機会を設け、入居後は面会時等に聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者が出席する会議で意見提案をすることがある、概ね反映させている。	毎月、フロア別会議、合同会議、夜間者専用会議を行い、入居者一人ひとりについての状況確認や日頃の気付きを提案、報告することになっている。職員の意見を反映して、重要度の低い仕事をなくすなどの取り組みをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は1階椿のホーム内の様子を観察したり、職員個々に対し状況を聴きだし、管理者からの努力や勤務状況をも収集した上で、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	千葉県福祉協議会・GH協会主催の研修や講習を交代で受けている。又、救命講習など進んで参加し、認知症に関する講習など自己研鑽している職員もいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年、千葉県の介護実践リーダー研修において、他GHへの自習をさせていただきました。いろいろな情報を取り取り組みに生かし提案を行いたい。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階では、要望をお聴きしサービスを提供しています。現在では、日常生活支援をする中で、ご本人が困っていることや要望をお聴きし支援するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と職員間で入居者の様子が記録されたノートを使用している方がおります。当初は、ご本人の残存能力を生かす意味でご家族とご本人様の日記でしたが、現在は家族との信頼の関係づくりに生かされている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の段階では、入居前の情報をお聴きし、ホームでの生活状況を2週間観察することでその方に合った支援をしている。地域サービスの情報も説明し利用して頂けている。(歯科・床屋)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活動作や手段的日常動作を考慮し、職員と一緒に行動することでサポートする立場を念頭に置き支援するよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の中には、認知症について学ばれており、積極的にホームに来所され外出援助・語りかけなど行っており、ご本人を支えて頂ける協力者となっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご親戚、お孫さんなど、又、近所付き合いのあった方などいつでも来訪できる状態にあり来訪されている、記念写真など撮影し支援に努めている。	友人や家族の来訪を歓迎しており、家族の訪問は多い。家族が同行して、なじみのかかりつけ医に受診している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個性・行動を把握し、上手く関わられるよう職員が間に入り関係が良くなる様に努めている。優しさから入居者が援助を行う事があるが、危険が無い様配慮している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後は、その時の状況に応じて必要な関係を維持している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	夫々の生活希望に合わせ支援を行っている。困難な場合でもその方の表情や仕草で把握に努めている。新たな希望や意向は記録として残し検討している。	職員は意識して「聞く」時間を取るようになっている。買物に行く時などは必ず声かけをし、要望や身体状況を聞くことにしている。把握した情報はケース記録に残し、ケアプランに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴・思考など踏まえたケアを支援している。現在では、ホームでの生活にも馴染まれており、穏やかに生活されている方が多くなっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月ケアプランを見直す事で、入居者個々の状態を確認し合い把握に努めている。毎日の心身状態の気づきは、バイタル測定・様子を観察し、赤で記録するなどして共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月2階ケース会議・業務会議を行いケアの評価を実施している。介護計画書にも反映させている、ご家族にも郵送し確認頂いている。	日々の変化は申し送り簿で共有し、毎月、フロア別会議、フロア合同会議の2回の会議を通じて一人ひとりの介護計画を見直している。見直し後の介護計画書は家族に郵送し、3ヶ月に一度は家族にも来てもらって、大きな見直しを行なっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の業務日誌・個人別ケース記録・水分バイタル測定排泄など都度記録し共有、その日の様子や行ったことなど職員は出勤時に申し送り業務を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所からの提案と、ご家族からの依頼があればその状況に応じてサービスを行う努力したい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	学生ボランティア・中学生の体験学習・選挙への投票・お店への買い物・地域の文化祭・敬老会など援助し暮らしを楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には、かかりつけ医の受診はご家族にお願いしている、緊急の際には、職員が家族に相談し早急対応している。ホームとしての協力機関も連携している。	状態の安定している入居者については、ホームの協力医が相談を受け、アドバイスをこなしている。直接医師の話聞くことができ安心して繋がるため、なじみのかかりつけ医のいる入居者は、家族に付き添ってもらってかかっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームとしては看護職の常勤は不在であり、ケア職員が入居者の状態の記録や申し送り、早期にリーダーに報告早目の受診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際に認知症では付き添いが無しでは出来ない医療機関もあり、入居者のご家族、医療機関との話し合いでより適切な入退院を話合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	基本的には、医療が必要とされず、ご家族が希望すれば終末期までのケア支援を行う事になるが、事業所でする事を説明し、双方が納得したうえで最善の努力支援をした。	入居時に医療についてのホームの考え、看護師がいないことによる限界などを説明し理解を得ている。入居者の状態は日頃から連絡帳や電話などで連絡を取り合い、重度化への対応には早めの相談、支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が救急医療を学び、緊急の対応に備えている。又、消防訓練なども実施し災害に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防訓練を行っている、スプリンクラーの設置を行った。災害時の通報訓練も実施している。近隣の方や家族も協力者である。	定期的な消防訓練を行い、スプリンクラーも設置した。自動通報装置も完備している。建物内では禁煙、石油ストーブは使用しないなど火を出さない取り組みも行なっている。	災害対策は何にも増して優先すべき事項である。夜間想定訓練や地域との協力体制の構築に少しずつでも取り組むことが期待される。

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	リーダーが研修に参加し、虐待や身体拘束を学び伝達研修を行い、支援の仕方を指導している。職員は基本姿勢を重視し努力している。	名前を呼ぶこと、くだけすぎず尊敬の念を持って話すことを原則としている。事務所の個人情報ファイルは施錠により管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重しているが、必ずしも全ての希望を叶えられず、本人本位で考え、又、選択していただくなど、納得したうえで支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活援助・外出援助を基本にその方に合わせた支援を行う様にしている、ケース日を受け個別の対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	認知症が進み身だしなみを気にしなくなっている方が居りますが、季節に合わせた衣類リネンなど職員が気にかけて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る支援を見極めて、一人ひとりに合わせ役割を持って頂き食事・片付けを行っています。ケース日には、職員と個別に食事を楽しんだり、外食も楽しみの1つとなっている。	メニューは入居者が毎日決めている。職員は冷蔵庫の中を見ながら、希望に沿うようにしている。入居者には買物、皮むき、下ごしらえ、味見などできることで食事作りに参加してもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、水分や食事をチェックし少ない場合は、好きなものに変えたり器を替えるなど工夫している。食事については、減塩調味料油も控えめで提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕の声かけ、出来ない方には援助している、月1回は、定期健診や入れ歯の調整など交代で歯科受診援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の確認の必要な方のチェックは、毎日に行われており、その方のペースや状況によりオムツ使用やトイレ誘導を行っている。	排泄チェック表を利用し、その人に合わせてトイレ誘導をしている。トイレに行くのを嫌がる人についても、職員が試行錯誤しながら声かけをして、自立に向けての支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないように、食事については野菜中心であったり、水分補給やラジオ体操も行っている。排泄の記録をすることで、予防もできている、毎日バナナ・自家製ヨーグルトもお出ししている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日が入浴日ですが、全員の方に入って頂くことは出来ないため、前日に入れなかった方に声をかけ2日に1回のペースで希望の時間帯にお勧めしている。	一日おきに入浴している。入浴を拒否する人については、家族と相談しながら、タイミングを見極めて声かけをしている。苜蒲湯など季節を感じてもらえるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には、日中の活動量を増やし、夜間安眠して頂く事を支援している。うとうとされる場合は、畳や居室で休むなど、個々に合わせた昼寝・就寝時間を考慮している。マッサージ機の使用もお勧めしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は、職員で管理され、適時服薬して頂いている。受診の際には、日頃の様子を連絡票にて医師へお伝えすることで薬処方の参考にして頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で自立支援を考慮しその方に合った役割を支援している、手芸・レクレーション・唄など行っている、お酒も夕食時に飲んで頂くなど楽しみとなっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	なるべくその方の希望に添うよう外出支援を考えている、普段行けない遠方の希望がある場合は、ご家族に伝え協力して頂いている。	元気な人は買物、散歩、ドライブなどよく出かけている。入居者の希望や思いを把握し、家族の協力を得て外出の機会をつくることもある。職員と入居者が一対一で過ごす「ケースの日」には、行きたいところへ出かけ食事などを楽しんでいる。	

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でのお財布があり、外出の際にはお持ちいただき買い物も楽しんで頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、夜間以外の好きな時間に一声かけて頂き、みなさん使用できる居間に設置されている。手紙は、書ける方が少なくなっていますが、書道という形で文字を書くことを毎月支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭がありどの居室も明るい居心地の良い居室となっています。居間にはこ上がり畳があり、気分転換に食事を摂る入居者もおります。書道や花など又、季節にあった置物(ツリー・お雛様)を設置します。	経験豊かな建築業者によって建てられた木造2階建ての建物は採光、空調、床暖房など快適に整備されている。居間、食堂、キッチンが中央に位置し、見守りしやすいバランスのとれた配置となっている。作品を飾ることで生活感を出し、本人の達成感と家族との話題づくりに役立っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の奥には、一人になれる空間があり、椅子を置いて外を眺めたり、マッサージ機があり、自由に使用できる様になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、入居時、馴染みのものや使い慣れたものをお持ちいただき生活して頂いている。フローリングに畳を敷いた部屋もあり、手工芸なども飾っている。	居室はどの部屋も日当たり良く、明るい。入居前の自宅訪問で生活の様子を把握し、その人に合わせた居室づくりを行うようにしている。本人のレベルにあわせベットを勧めたり、希望により畳を入れ、和風にしたりしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関先には植物が好きな方の園芸コーナーがあったり、手工芸が好きな方の展示品があったり、いつでも見て頂ける雑誌を置き目を通して頂ける様支援している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所